

平成27年度第3回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「学力向上に向けた授業改善の取組」
- 2 日 時：平成27年8月7日（金）
- 3 場 所：児島市民交流センター
- 4 参加者：授業改革推進リーダー、外部有識者（大学教授）、保護者代表等 8名
- 5 知事挨拶

本日は、学力向上に向けた授業改善の取組ということで、大変関心のあるテーマである。授業改善に向けた取組や大切なポイントについて、学校に関わる様々な立場から御意見を頂きたい。

6 発言内容

【授業改革推進チームの取組についての紹介】

- ・ 平成26年度に県内3チームで始まった授業改革推進リーダー・推進員は、今年度から新たに2チームを加え、計5チーム、24人で県下の小中学校の授業改革に当たっている。
- ・ リーダー・推進員の主な取組としては、若手からベテランまでの授業に対するアドバイス、相談役、さらに地域の連携強化のため、小中連携への一役も担っている。
- ・ 授業に2人目の教員として関わる。示範授業を行う。定期的な研究協議会等での情報交換。地区内の指導教諭を集めた地区別研究協議会の開催等にチームで取り組んでいる。

【取組の中で感じる先生や児童生徒の変化】

- ・ 実際の授業から、それぞれの先生へアドバイスを行うことにより、先生達が自分の授業を振り返ることになり、授業改善の効果が大きい。また、宿題の出し方の統一等、学校組織の課題にアドバイスをすることもある。
- ・ 昨年度、岡山県から出された「岡山型学習指導のスタンダード」を基本に指導助言している。また、地区の研究協議会は、各学校の隠れた好事例をタイムリーに情報交換できる場となっている。
- ・ 中学校では、生徒指導や部活動に重きが置かれ、なかなか授業への意識が高まらなかったが、取組を進めるうちに先生達の意識が、「良い授業をしたい」と変わってきたような気がする。
- ・ 学校のニーズや期待をしっかりと捉えながら、授業を見る視点を大切にし、指導助言を行っている。前回アドバイスしたことを、しっかりと意識して授業をしようとしている先生方が増えており、自分たちの取組に手応えを感じている。
- ・ 授業改善には、授業をつくるプロセスと授業を振り返る取組の両方があるが、この事業は振り返る方の活動を豊かにしている。振り返る武器として学習指導のスタンダードが有効であることが分かった。（外）
- ・ 先生達は独自のやり方へのこだわりもよいが、よいものを真似ることの大切さも広めてほしい。（外）

【取組のうまくいった例やこうすればよくなるという例】

- ・ 小中でのノーメディアや家庭学習強化週間等の取組をしてきているが、家庭学習の実態の把握・分析ができていない。細かな調査・分析が次の取組につながる。
- ・ 先生一人ひとりには授業を頑張っておられるが、それぞれがバラバラに取り組んでいるので、次の学年につながらない。取組のズレを適時に修正していく必要がある。

- ・ 例えば板書の色使いなどのように、学校によってルールが統一されてなく、また、中学校でそれらのルールもリセットされてしまうため、小学校で生徒が習慣化したものが途切れてしまっている。広いエリアで、授業のルールを統一していく必要性を感じている。
- ・ 習熟度別指導の教室を見たとき、その違いは、プリントの管理や授業の受け方、道具の整理など、学力以前の習慣が学力格差につながっていると感じる。低学年からきちんと定着させる大切さを感じる。(外)
- ・ 保護者同士の小中連携の大切さも強く感じている。親同士も学校を超えた、広域の交流を始めている。(保)
- ・ 昔の先生は、思い出に残るような授業をしてくれていた。きちんとした授業も大切だが、保護者として、印象強く、子どもの興味を引くような授業もしてもらいたい。(保)

【その他】

- ・ 学習指導のスタンダードに書いていることがなぜ大切なのかその意味をきちんと伝えたい。教員に定期的に発行している通信などでデータや資料を提示することで、説得力を持たせたいと取り組んでいる。
- ・ マニュアルにはないが、子どもの意欲を高めるような、ちょっとしたアイディアや工夫も若い先生に伝えてあげたい。学級づくりにも生かせると思う。
- ・ 教員は自分の良い点を評価してもらうことが少ない。先生達の良い点を引き出すことにも力を入れて、意欲の向上につなげたい。
- ・ 学習指導のスタンダードの作成者として、スタンダードの裏にあるエピソードや意味も伝えていかなければならない。生徒にインプットだけでなく、アウトプットさせるような授業が大切である。
- ・ がんばる学校表彰校の校長に、改善の方法等を聞くと、やっていることは他の学校と同じような取組である。他校と何が違ったから成果につながったか分析を深める必要がある。何が成果を生んでいるのかを見極めることが大切。取組はしていても効果が上がらないなら思い切ってやめる、そこもリーダーにはアドバイスをしてほしい。(外)
- ・ 学校の先生が、ここまで頑張ってくれていることが保護者に伝わっていないことが残念。今日は大変勉強になり、保護者としてもっと頑張らねばと感じた。(保)
- ・ 先生方の良いところを伸ばし、ぜひ元気でいてもらいたい。その元気が子どもにも伝わると思う。(保)
- ・ 学校を超えて授業改革を行う、リーダーの取組に大変期待しており、県内にもっと広がればよいが、そのためには人材育成が重要である。目標になる先生をどう育てていくのか。大学としてもしっかりと育成に励んでいきたい。(外)

7 知事まとめ

- ・ 頑張る学校応援事業を行っているが、授業改革推進リーダーの取組も似たところがあり、両方とも、それぞれの学校の良い実践を、全県内に普及・拡大していく取組である。リーダーの皆さんには今後も、岡山の教育のために、ご尽力いただきたい。
また、保護者全体の活動で学校を盛り上げる、PTAの存在は本当に心強いものだと感じたし、外部有識者の先生には示唆に富んだ御発言を多く頂いた。今後とも引き続きご助言いただきたい。